

和歌山県名匠

あづま
東

ひろみ
浩美

■経歴及び業績

昭和19年西牟婁郡白浜町で生まれる。昭和36年に和歌山職業訓練所木工科修了後、同年に見習いとして建具工の道に入る。

昭和45年に独立し、重要文化財旧柳川家住宅・旧谷山家住宅の建具修理に従事したのを皮切りに、今日まで数多くの伝統的工法による建具の補修と製作に携わっている。とりわけ、県内の国宝や重要文化財などの文化財建造物については、補修や新調などの重要な建具工事を多く手掛けてきた。

昭和47年に国宝長保寺本堂、昭和60年に重要文化財増田家住宅、平成3年に重要文化財道成寺本堂、平成7年に重要文化財普賢院、平成10年に国宝金剛峯寺不動堂の建具製作補修を行い、現在は、重要文化財旧中筋家住宅の修理工事に携わっている。

建具工の仕事は、常に神経の細かい繊細な技術が求められる。さらに古建築の修理にあたっては、各時代のあらゆる建具に関する豊富な知識と深い理解が必要である。氏は、長い経験の中でこれらの知識と卓越した技術を習得した、数少ない貴重な文化財を扱う建具工の一人である。

昭和56年には和歌山県技能賞を受賞している。



職 種：建具工（文化財保存修理）